

滋賀県多賀町

一円 憲一 氏

鳥獣被害対策・ジビエ

滋賀県獣害対策アドバイザーとして
湖東地域の獣害対策の普及・推進に貢献



取組内容

○ 滋賀県犬上郡多賀町一円地区において、鳥獣被害対策として防護柵の設置や柵の管理を行う「電気柵保全会」の効率的な運営を主導。被害対策道具の自作、住民への普及啓発等により地域の被害を軽減させたほか、近隣の集落や市町に対しても被害防止対策の指導的役割を果たすなど、長年にわたり湖東地域の獣害対策のリーダーとして地域に貢献。

取組に至った経緯

○ 自身の畑がサルの被害を受けたことをきっかけに獣害対策に関心を持つようになり、自作のネット柵を設置したのが始まり。一円地区の電気柵の設置計画や柵の維持管理を行う「電気柵保全会」の効率的な活動に尽力した。



一円 憲一 氏

取組の成果(受賞等)

- 当該地域の平成21年度の農作物被害は5,100万円だったが、各種取組の成果から令和3年度には70万円と激減させることができた。
- 集落環境点検やニホンザルのテレメトリー調査をはじめ、捕獲檻や追い払い器具の製作など多岐にわたり貢献。また、滋賀県獣害対策アドバイザーとして、湖東地域を中心に獣害対策の推進に貢献。
- 令和4年度鳥獣対策優良活動表彰(個人) 農林水産大臣賞

今後の展望

○ 獣害対策技術の継承に向けて、普及活動の強化やマニュアルの作成など、獣害対策に関わる人材の育成に力を入れていきたい。

兵庫県宍粟市

宍粟市有害鳥獣対策推進協議会

鳥獣被害対策・ジビエ

住民によるスマートな鳥獣被害対策



取組内容

- 宍粟市有害鳥獣対策推進協議会は大学等と連携し、センサーカメラ等の情報を基に、地理情報システムを用いた被害マップの作成を行い、可視化した被害状況を住民に共有。
- 研修会等を行い、住民がデータ等に基づき捕獲を実施する体制を整備し、SNSを活用した住民間での情報共有を積極的に推進。
- 人と野生動物の棲み分けを実現するため、集落と林縁部の間への緩衝帯の整備を実施。また、アプリでゲートの閉鎖ができるICT捕獲システムの整備も実施。

取組に至った経緯

- 宍粟市はシカ・イノシシによる水稻被害の深刻化を受け、県や市、大学等が連携し住民による鳥獣被害防止の取組を推進。

取り組む際に生じた課題と対応

- SNS等の使い方がわからない高齢者が多かったため、研修会を開催したり、若手の地域おこし協力隊の方が定期巡回・指導を行ったりすることで、円滑な情報共有が可能となった。

取組の成果(受賞等)

- 水稻被害が減少し「ちくさの舞」と呼ばれるブランド米の生産に繋がった。
- 「令和4年度鳥獣対策優良活動表彰」農村振興局長賞（被害防止部門(団体)）

今後の展望

- 今後も住民のニーズに応じた鳥獣被害防止の取組を行い、「SHISO BRAND」を確立し、千種川と揖保川の源流の水を活用した特色ある水稻栽培に繋げていきたい。



(センサー式自動捕獲システム)



(監視用カメラ)

鳥獣被害対策・ジビエ

兵庫県多可町

NPO法人cambio〈カンビオ〉

こだわり原料のペットフードで
地域の課題を解決！



取組内容

- 捕獲されたシカのペットフード利用に取り組むことで、地域課題の解決（障害者雇用の創出や遊休農地の解消、遊休施設の有効活用、町のシカ処分経費の軽減）を実現。
- 鹿ポストの24時間受入体制の構築により町内の有害捕獲個体の8割以上を受け入れて獣害対策に大きく貢献。現在は多可町以外の2町からも受け入れ。



鹿ポストと保管中のシカ

取組に至った経緯

- 多可町では、鳥獣被害が深刻化する中、人口減少・高齢化といった問題も顕在化し、捕獲したシカの利活用が進んでいなかった。既に町営の食肉加工工場はあったが、食肉利用に適した個体の確保が困難で実績も無かった。
- このような状況を打開するため、食肉として利用できない肉でも有効活用できるペットフードの加工、販売に取り組んだ。

取組の成果(受賞等)

- 農林水産省令和元年度鳥獣対策優良活動表彰 農村振興局長賞
- 同年、近畿「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第3回)でも優良事例に選定。

今後の展望

- シカの解体ができる職員を増員して、原料のシカ肉の供給を増やしたい。
- ウェットフードの需要に対応できるように、副原料であるキクイモの生産を増産したい。

和歌山県田辺市

株式会社 日向屋

鳥獣被害対策・ジビエ



若手農家が挑む
地域活性化の取組

取組内容

- 地域の課題をみんなで解決すべく地元の若手農家が会社を立ち上げ。獣害対策として、シカ、イノシシの捕獲に取り組んだ結果、地域の鳥獣被害が減少。地域が一体となりジビエ解体処理施設を誘致し、捕獲した獣肉を地域資源として有効活用。
- また、担い手不足、高齢化による耕作放棄地の増加に対応するため、梅の剪定作業、草刈り等の農作業受託、狩猟体験ツアーやみかん、うめの収穫体験などグリーンツーリズムに取り組む。
- 狩猟・解体と農作業受託を二つの柱として持続可能な取組を行い、次世代に繋げている。

取組に至った経緯

- 鳥獣害、担い手不足、耕作放棄地等の課題を解決するため、地元の若手農家が集まり、平成29年にTEAM HINATAを結成。
- 平成30年には活動を拡大するために(株)日向屋を設立し、現在はサポートスタッフを含め、12名で活動。

取組の成果(受賞等)

- 令和2年度近畿「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第4回)に選定
- 令和3年度第8回ディスカバー農山漁村(むら)の宝に選定
- 第52回日本農業賞「食の架け橋の部」特別賞受賞
- 令和4年度鳥獣対策優良活動表彰 農林水産大臣賞(捕獲鳥獣利活用部門(団体))



受託した梅の剪定作業の様子

今後の展望

- スタッフがレベルの高い仕事をすることで、格好良く稼げる革新的な農人と森の番人プロジェクトの完結を目指す。グリーンツーリズムのコンテンツ開発や農産品、ジビエを活用した新たな商品開発等を通じて、持続可能な取組に繋げていきたい。

京都府笠置町

株式会社RE-SOCIAL

鳥獣被害対策 ジビエ



ジビエの流通で地域課題を解決する

取組内容

- 鹿の捕獲の他、ジビエ事業「やまとある」、ペットフード事業「GOOD MEAL ONE!」、レザー事業「COL STYLE」、飲食事業「MEAT UP」を手掛け、捕獲した鹿の部位を余すことなく活用。
- 大学と共同開発したIoT機器を活用した捕獲檻を設置し、見回り等作業の効率化を図る。
- イスラム圏からの観光客向けの販路開拓を見込み、2020年12月に「ハラール認証」を取得。

取組に至った経緯

- 学生時代に地域課題を学ぶ中で、獣害対策により捕獲された鹿や猪が山の中に埋却される光景を目にし、この現状をビジネスとして解決できないかと考え、起業を決意。

取り組む際に生じた課題と対応

- 生きたまま捕獲場所から加工場まで運ぶ「生体搬送」を行うことにより、臭みや固さが気にならない新鮮な肉を消費者に提供。

取組の成果(受賞等)

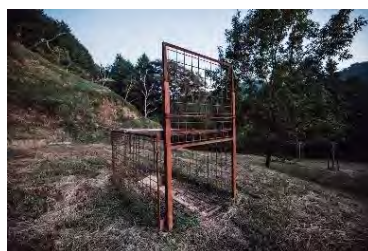
- 令和3年度 第9回 京の公共人材大賞 最優秀賞受賞
- 令和5年度 KYOTO Next Award 2023 最優秀賞受賞

今後の展望

- 今後更にジビエの消費拡大を図るため、ペットフード製造を増やし海外への展開を目指す。



(新鮮な鹿肉を販売)



(IoT機器を導入した捕獲檻)



(ハラール認証)